

スキーオリエンテーリング

JWOC & WMOC 2001

日本代表選手 決定

(社)JOA SKI-O 委員長 武石雄市

2月11日から18日まで、イタリア北部トレンティノ・フォルガリアで開催される「2001年スキーオリエンテーリングジュニア世界選手権並びにマスターズ世界選手権大会」に参加する日本代表選手が決定しました。

特筆すべきは、両選手権とも日本は初参加であることだろう。

選手の募集・指定に当たっては早くから本誌をはじめ各会場でチラシの配布、インカレ・ショートのプログラム広告を出して周知徹底を計った積もりでしたが思うように応募がありませんでした。

この間、手をこまねいていることなく、国体・インターハイで活躍したクロカンスキーヤー数名に直接折衝したり、コーチ等に推薦を依頼したが、いずれも成熟にいたらなかった。

そのいずれの理由も、共通していることはオリエンテーリングの認知度が低いため、世界大会より国内大会を目指すことの逆的な重要性が理由であった。

中には、本人と両親が承諾しているのに、高校時代のクラブ顧問から国体やインカレを重視するがため反対され、エントリー土壇場でひっくり返されたケースもあり、本人や推薦者は泣く泣く、担当者としてバックアップが出来ない不甲斐ない残念な思いをしました。

ともあれ、SKI-O JWOC は1994年から毎年開催され、WMOC も又1997年ロシア・サンクトペテルブルクで開催されてから毎年開催されている。

この間、日本人が参加したことを聞いていないので、この7名の選手団は両選手権大会ともに21世紀の幕開けを記念した名誉ある初参加となります。

選手紹介

以下、簡単に選手紹介します。
各所属クラブ、OB、協会等の激励を賜れば幸いです。
選手団一同に対しては、日本 SKI-O 研究会が窓口となります。

堀江守弘

写真 1

所属：東北大学（山形県出身）
クラス：JWOC（19歳）

中学生以来、スキーから離れているが、早く感を取り戻しベストで望みます。

植野由香

写真 2

所属：北海道教育大（長野県出身）
クラス：WO（20歳、兼コーチ）

来年のブルガリア WOC を目指し世界のレベルを確認してきます。

滝本正一郎

写真 3

所属：富士通 F/I/P（千葉県出身）
クラス：H35（39歳）

登山からスキー-O に転じて3年、厳しいクラスですが、頑張ります。

三澤儀男

写真 4

所属：日立工機 OLK（茨城県出身）
クラス：H50（52歳）

憧れのマスターズに思い切って参加してきます。来年以降参加する選手の増加することを希望します。

高原 進

写真 5

所属：藤野町（神奈川県出身）
クラス：H55（59歳）

国内のSKI-O 大会には、時間の許す限り参加してきました。いよいよ世界を見てきます。

弘中 進

写真 6

所属：岩国 OLC（山口県出身）
クラス：H60（61歳）

念願のマスターズに参加できることになり、夢のようで感激しています。同じクラスに武石さんが居りますが体調を整え、持てる力を存分発揮してまいります。

武石雄市

写真 7

所属：SKI-O 研究会（山形県出身）
クラス：H60（64歳、選手団団長）

もっと多くの方々に参加していただきたかったが、初参加でもあり、レースは思い切って走り回り、自分のレベルを試してきます。

運営面では全ての面を貪欲に吸収し、日本のSKI-O普及になる点を勉強してきます。

今回の参加に当たってイタリアにブリテン送付を要求しても返事がなく、httpのイタリア語を山田一善さん村越久子さんの協力の元処理しました。

お国柄かエントリー締切りも、当初の予定を3回も延長し年末ギリギリのエントリー、費用の振込みも当初のユーロから突然イタリアリラに変更になったり、かなり振り回されました。

現地では、選手が実力を発揮できるような環境と体調の調整に腐心したいと思います。

競技日程も変更されています。

2月11日（日）到着

12日（月）トレーニング

13日（火）開会式行事

14日 水 ショート

15日（木）リレー

16日（金）トレーニング

17日（土）ロングディスタンス
閉会式、バンケット

18日（日）出発

現地日本チームへの連絡は、

e-mail:skio2001@tecnonth.it

fax:+39 0464 720250

SKI-OJWOC&WMOC2001

JAPAN

皆様のご声援をお願いします。

SKI-O 合宿参加報告

（蔵王ライザ・クロカンコース）

12月22日から25日まで毎年恒例のスキーオリエンテーリング愛好者の合宿を行った。

年末の多忙な時期でもあり、クリスマス前後で参加者には日程のやりくりが難しいにもかかわらず、その数は年々増加している不思議がある。

写真 8

写真は合宿参加者一同

会場と宿泊所も、最初はセントラルロッジでしたが、一昨年と昨年はウッドロージ、そして今年は年々ハードになるトレーニングメニューに対応できるようにパークロッジになった。

ライザワールドは、海拔1000m以上で基礎練習の出来る広いグリーングラウンドがあり、高低差約90mで幅員6m、距離3kmの常設コースが積雪があるたびに圧雪されていてあらゆるトレーニングに対応できる。

地図もOCAD作図の「霧氷の林」が健在でパソコンとプリンターを持ちこむと直ぐにもSKI-O大会が開催できる、国内有数のSKI-O適地である。

昨年は、自衛隊式にトレーニングメニューを武石が作成したが、今年は4日間参加者を対象に柴田君が作成した。

しかし、23日（土）の天候が午後この季節には珍しく快晴で、急遽蔵王名物『お釜』にツアーリングした。

第3リフト終点から晴天によりラストされたエコラインを快適にスケータリングで登り、参加者の半数

7名が今年も冬のお釜を見ることが出来た。

帰路も回向ラインを忠実に下ったが、クラストされてスキーのコントロールができず、昨年フィンランド・ヴォカッティWCで内山氏がスキーを折損した魔のコースを思い起させた。

夕食後のミーティングで聞いたら、最後まで転倒しなかった者は僅か三澤と武石の2名のみであった。

SKI-Oのレースでは転倒すると莫大な時間のロスになる。登りや平地の技

術も当然大事だが、クロカン用スキーで滑降技術の習得も極めて大切なトレーニングです。

この日午後の走行距離は少ない者で15km、まともにエコラインをお釜まで往復した者は20km超の走行距離となる。

写真 9

写真は 紅一点の大里真理子（京葉）

スキーの滑走性を増加させタイム短縮のためにワクシング技術がある。

気温・雪温、湿度、雪質、スキートラックの状況判断で、メーカー毎に数十種類あるワックスの中から選定し

